

科目名	ソーシャルコミュニケーション			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32 時間 16 回			専任・兼任	兼任
実務経験	【教育実績】1991～2000、08～09、09～18 福岡県立小・中学校 九州医療専門学校 【臨床実績】2009～18 九州医療専門学校九福附属治療院				
一般目標(GIO)					
治療院を開業及び就職するために必要な情報を提供し、地域社会に生きる1人の鍼灸師としての自覚と同業者や患者とのコミュニケーションについて学習する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	18	2	資格を持つということ	患者に対する鍼灸師としての自分の責任について考える。
2		25	2	現在の労働問題について	日本と世界の労働環境の歴史と違いについて理解する。
3	10	2	2	大学生の就職活動と私たちの就職活動の違いについて	即戦力として求められることを理解する。
4		9	2	エントリーシートと履歴書の違いと書き方についてⅠ	エントリーシートと履歴書それぞれの項目について理解する。
5		16	2	エントリーシートと履歴書の違いと書き方についてⅡ	自分自身のことをそれぞれの項目に書くことができる。
6		23	2	エントリーシートと履歴書の違いと書き方についてⅢ	自分自身のことをそれぞれの項目に書くことができる。
7		30	2	求人票の見方	求人票の項目について理解する。
8	11	6	2	就職するということ	鍼灸師としての自覚と職場の仲間や患者とのコミュニケーションの大切さを理解する。
9		13	2	開業するということ	経営者としての責任と地域社会とのコミュニケーションの大切さを理解する。
10		20	2	開業に関する手続きについて	患者に対する鍼灸師としての自分の責任について考える。
11		27	2	組合の入会及び手続きについてⅠ	組合の入会に必要な書類の書き方、提出先を知る。
12	12	4	2	組合の入会及び手続きについてⅡ	組合に入会するメリットとデメリットを理解する。
13		11	2	創業資金について	創業資金の調達方法について考える。
14		18	2	創業計画書の作成	日本政策金融公庫から創業資金を借り入れると仮定し、創業計画書の項目を確認し記入する。
15	1	15	2	筆記試験	
16	2	12	2	全体のまとめと復習	
評価基準				教科書	参考書
課題提出	30%			自作プリント	
筆記試験	20%				
出席日数	30%				
授業態度	20%				

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	解剖学Ⅳ			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	前期
単位数	2			講義・実習	講義
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	17年(鍼灸整骨院 4年、付属鍼灸院 13年)				
一般目標(GIO)					
人体の構成を理解することで、将来、はり師・きゅう師として施術の危険性を察知できる能力を身につけさせ、かつ、図る興味を持たせ、より良い医療人を育成することを目標に位置づけている。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	1	生殖器系(女性生殖器)	卵巣・卵管の構造と機能の説明ができる。
2	4	12	3	生殖器系(女性生殖器)	子宮・膣・外生殖器の構造と機能の説明ができる。
3	4	17	1	生殖器系(受精と発生)	受精・着床・胎盤の説明ができる。
4	4	19	3	泌尿器系(腎臓)	腎臓の機能と構造、腎臓の血管の説明ができる。
5	4	24	1	泌尿器系(腎臓)	腎臓の機能と構造、腎臓の血管の説明ができる。
6	4	26	3	泌尿器系(尿路)	尿管・膀胱・尿道の機能と構造の説明ができる。
7	5	8	1	泌尿器系(尿路)	尿管・膀胱・尿道の機能と構造の説明ができる。
8	5	10	3	内分泌系(下垂体・松果体)	下垂体前葉・後葉・松果体のホルモンの作用が説明できる。
9	5	15	1	内分泌系(甲状腺・副甲状腺・上皮小体)	甲状腺・副甲状腺・上皮小体のホルモンの作用が説明できる。
10	5	17	3	内分泌系(副腎・膵臓)	副腎・膵臓のホルモンの作用が説明できる。
11	5	22	1	神経系(中枢神経・末梢神経)	中枢神経と末梢神経の違いを説明できる。
12	5	24	3	神経系(大脳皮質・大脳髄質)	大脳の構造と機能が説明できる。
13	5	29	1	神経系(大脳皮質・大脳髄質)	大脳の構造と機能が説明できる。
14	5	31	3	神経系(大脳皮質・大脳髄質)	大脳の構造と機能が説明できる。
15	6	5	1	神経系(間脳・脳幹・小脳)	間脳・脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳の構造と機能の説明ができる。
16	6	7	3	神経系(間脳・脳幹・小脳)	間脳・脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳の構造と機能の説明ができる。
17	6	12	1	神経系(間脳・脳幹・小脳)	間脳・脳幹(中脳・橋・延髄)・小脳の構造と機能の説明ができる。
18	6	14	3	神経系(脳室系・髄膜・脳血管)	脳室系・髄膜・脳血管(脳底動脈輪)の構造と機能の説明ができる。
19	6	19	1	神経系(脳室系・髄膜・脳血管)	脳室系・髄膜・脳血管(脳底動脈輪)の構造と機能の説明ができる。
20	6	21	3	神経系(求心性伝導路)	求心性伝導路の説明ができる。
21	6	26	1	神経系(求心性伝導路)	求心性伝導路の説明ができる。
22	6	28	3	神経系(遠心性伝導路)	遠心性伝導路の説明ができる。
23	7	3	1	神経系(遠心性伝導路)	遠心性伝導路の説明ができる。
24	7	5	3	神経系(脳神経)	脳神経(第1～12脳神経)の構造と機能の説明ができる。

25	7	10	1	神経系(脳神経)	脳神経(第1～12脳神経)の構造と機能の説明ができる。
26	7	12	3	神経系(末梢神経系)	脊髄神経・自律神経の説明ができる。
27	7	17	1	感覚器系(視覚)	眼(外膜・中膜・内膜)の構造と機能、視覚伝導路の説明ができる。
28	7	19	3	感覚器系(視覚)	眼(外膜・中膜・内膜)の構造と機能、視覚伝導路の説明ができる。
29	7	24	1	感覚器系(聴覚)	内耳・中耳・外耳の構造と機能、聴覚伝導路の説明ができる。
30	7	26	3	感覚器系(聴覚)	内耳・中耳・外耳の構造と機能、聴覚伝導路の説明ができる。
31	8	28	1	感覚器系(味覚・嗅覚器)	味覚器(舌乳頭)・嗅覚器の構造と機能が説明できる。
32	8	30	3	前期試験返却・解説	
評価基準				教科書	参考書
筆記試験		100%	解剖学 第2版 東洋療法学校協会		生理学 第3版 東洋療法学校協会

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	生理学V			学年	2年 16期生
担当者				期別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間 16回			専任・兼任	専任
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院14年				
一般目標(GIO)					
鍼灸師にとって必要な人体の機能を学び、患者の状態を正しく理解し、鍼灸治療の効果がどのようにして発揮されるかについて理解するための基礎知識を修得する。					
人の健康はホメオスタシスによって保たれ、この「乱れ」は疾患を招く。本科目を通じて人体の誕生や生命維持のメカニズムを修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	3	生殖	男性生殖器・女性生殖器について説明できる。
2	4	15	3	妊娠と出産	受精・着床・妊娠について説明できる。
3	4	22	3	妊娠と出産	胎児の発育・分娩・乳汁分泌について説明できる。
4	5	13	3	成長	身長 体重の経時的変化・身体各部位の成長・各器官の成長について説明できる。
5	5	20	3	老化	細胞の寿命・生理的老化の特徴・身体機能の加齢変化について説明できる。
6	5	27	3	生体の防御機構	非特異的防御機構(自然免疫)・特異的防御機構(獲得免疫)について説明できる。
7	6	3	3	生体の防御機構	白血球の働きについて説明できる。
8	6	10	3	生体の防御機構	免疫系に働く液性因子について説明できる。
9	6	17	3	生体の防御機構	リンパ系器官について説明できる。
10	6	24	3	免疫反応	液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
11	7	1	3	免疫反応	炎症について説明できる。
12	7	8	3	免疫反応	アレルギー・自己免疫疾患について説明できる。
13	7	16	3	生体の適応	気候馴化・高地馴化について説明できる。
14	7	22	3	恒常性維持	血圧と血液量の調節・体液の電解質調節について説明できる。
15	7	29	3	恒常性維持	血糖調節・体温調節について説明できる。
16	8	26	3	バイオリズム	睡眠 覚醒・自律神経 内分泌機能の日内リズムについて説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験) 100%			生理学 第3版 (東洋療法学校協会編)		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	病理学概論			学年	2 年 16 期生
担当者				期別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32 時間	16 回		専任・兼任	兼任
実務経験	専門学校講師13年 臨床11年				
一般目標(GIO)					
病理学について理解し、疾病の成り立ちを考える力を身に着ける。 国家試験に必要な知識を身に着ける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	26	2	授業ガイダンス	病理学を知る 病因について説明できる
2	10	3	2	病因	多様な病因について理解し説明できる
3		10	2	循環障害	循環障害について理解し説明できる
4		17	2	循環障害	循環障害について理解し説明できる
5		24	2	退行性病変	退行性病変について理解し説明できる
6		31	2	退行性病変	退行性病変について理解し説明できる
7	11	7	2	進行性病変	進行性病変について理解し説明できる
8		14	2	進行性病変	進行性病変について理解し説明できる
9		21	2	炎症	炎症について理解し説明できる
10		28	2	炎症	炎症について理解し説明できる
11	12	5	2	腫瘍	腫瘍について理解し説明できる
12		12	2	腫瘍	腫瘍について理解し説明できる
13		19	2	免疫異常アレルギー	免疫異常アレルギーについて理解し説明できる
14	1	9	2	先天性異常	先天性異常について理解し説明できる
15		23	2	先天性異常	先天性異常について理解し説明できる
16	2	6	2	期末試験返却・解説	期末試験の結果について自己分析できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	東洋療法学校協会『病理学』 (医歯薬出版株式会社)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学総論 I			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間・16回			専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務6年 専門学校附属治療院2年				
一般目標(GIO)					
チーム医療を担う一員として、医療を安全かつ効率的に実践するために、適切な診察法を理解し、主たる症候を判断・説明できることを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	19	3	診察の概要・医療面接	医療面接を学び、実際に行うための準備をする
2		30	3	視診・触診・打診・聴診・測定法	意義と方法を学び、正常と異常を判断できる
3	10	7	3	神経系・バイタルサインの診察	意義と方法を学び、正常と異常を判断できる
4		21	3	全身の診察1	顔貌、精神状態、言語、身体計測の正常と異常を理解する
5		28	3	全身の診察2	体型、栄養状態、姿勢、歩行、皮膚の正常と異常を理解する
6	11	11	3	全身の診察3	爪、リンパ節、その他一般状態の正常と異常を理解する
7		18	3	局所の診察1	頭部、顔面、眼、鼻、耳、口腔の正常と異常を理解する
8	12	2	3	局所の診察2	頸部、胸部、乳房、肺・胸郭、心臓の正常と異常を理解する
9		9	3	局所の診察3	腹部、背部、四肢の正常と異常を理解する
10		16	3	神経系の診察1	感覚検査、反射検査の意義と方法を理解し、正常と異常の判断を行える
11		23	3	神経系の診察2	脳神経系検査、髄膜刺激症状検査の意義と方法を理解し、正常と異常の判断を行える
12	1	8	3	運動機能検査	運動機能検査の意義と方法を理解し、正常と異常の判断を行える
13		16	3	臨床検査法	一般検査、血液生化学検査の意義と方法を理解し、正常と異常の判断を行える
14		20	3	臨床検査法	生理学的検査および画像診断の概要、意義と方法を理解し、正常と異常の判断を行える
15		27	3	まとめ	
16	2	10	3	テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学総論(東洋療法学校協会)		フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論 I		学年	2 年 16 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	2 単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	32時間 16回		専任・兼任	専任	
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院14年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	1	感染症	細菌感染症の種類や特徴について説明できる。
2	4	15	1	感染症	細菌感染症の種類や特徴について説明できる。
3	4	22	1	感染症	ウイルス感染症・の種類や特徴について説明できる。
4	5	13	1	感染症	ウイルス感染症・の種類や特徴について説明できる。
5	5	20	1	呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患について説明できる。
6	5	27	1	呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患について説明できる。
7	6	3	1	呼吸器疾患	拘束性呼吸器疾患について説明できる。
8	6	10	1	呼吸器疾患	肺癌を中心とするその他の呼吸器疾患について説明できる。
9	6	17	1	腎・尿器疾患	原発性糸球体疾患について説明できる。
10	6	24	1	腎・尿器疾患	腎不全について説明できる。
11	7	1	1	腎・尿器疾患	腫瘍・結石・前立腺疾患について説明できる。
12	7	8	1	内分泌疾患	内分泌の解剖・生理について復習・確認をさせる。
13	7	16	1	内分泌疾患	下垂体疾患について説明できる。
14	7	22	1	内分泌疾患	甲状腺疾患について説明できる。
15	7	29	1	内分泌疾患	副腎疾患について説明できる。
16	8	26	1	内分泌疾患	副腎疾患について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論Ⅱ			学年	2 年 16 期生
担当者				期別	前期
単位数	2			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間・16回			専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務 1年、鍼灸整骨院勤務 3年、専門学校附属鍼灸院勤務 7年				
一般目標(GIO)					
<p>人体の各臓器・器官における代表的な疾患についての病態生理を理解する。</p> <p>本科目では各疾患を学習する際、解剖学・生理学分野の解説を絡めながら、患者と接した時、医療従事者として対応できるだけの知識・能力の習得を目標とする</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	2	口腔疾患	代表的な口腔疾患の病態を理解し説明できる
2		18	2	食道疾患	代表的な食道疾患の病態を理解し説明できる
3		25	2	胃疾患	代表的な胃疾患の病態を理解し説明できる
4	5	9	2	腸疾患	代表的な腸疾患の病態を理解し説明できる
5		16	2	肝臓疾患	代表的な肝臓疾患の病態を理解し説明できる
6		23	2	胆疾患	代表的な胆疾患の病態を理解し説明できる
7		30	2	膵臓疾患	代表的な膵臓疾患の病態を理解し説明できる
8	6	6	2	小児科疾患	代表的な小児科疾患の病態を理解し説明できる
9		13	2	一般外科	熱傷・ショックの病態と救急処置を理解し説明できる
10		20	2	麻酔科	全身麻酔・局所麻酔の概要を理解し説明できる
11		27	2	婦人科疾患	代表的な婦人科疾患の病態を理解し説明できる
12	7	4	2	皮膚疾患	代表的な皮膚疾患の病態を理解し説明できる
13		11	2	眼科・耳鼻科疾患	代表的な眼科・耳鼻科疾患の病態を理解し説明できる
14		18	2	精神疾患・心療内科	代表的な精神疾患・心療内科の病態を理解し説明できる
15		25	2	リウマチ疾患・膠原病	代表的なリウマチ疾患・膠原病の病態を理解し説明できる
16	8	29	2	テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学各論(医歯薬出版)		病気がみえる(メディックメディア)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)



科目名	臨床医学各論Ⅲ			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	前期
単位数	2 単 位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間 16回			専任・兼任	専任
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院14年				
一般目標 (GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	9	3	代謝・栄養疾患	糖代謝異常について説明できる。
2	4	16	3	代謝・栄養疾患	脂質代謝異常について説明できる。
3	4	23	3	代謝・栄養疾患	尿酸代謝異常について説明できる。
4	5	7	3	代謝・栄養疾患	ビタミン欠乏症・過剰症について説明できる。
5	5	14	3	循環器疾患	心不全について説明できる。
6	5	21	3	循環器疾患	心臓弁膜(僧帽弁)疾患について説明できる。
7	5	28	3	循環器疾患	心臓弁膜(動脈弁)疾患について説明できる。
8	6	4	3	循環器疾患	不整脈と代表的な先天性心疾患について説明できる。
9	6	11	3	循環器疾患	狭心症について説明できる。
10	6	18	3	循環器疾患	心筋梗塞について説明できる。
11	6	25	3	循環器疾患	動脈硬化症・大動脈瘤・大動脈解離について説明できる。
12	7	2	3	循環器疾患	高血圧症や血圧症について説明できる。
13	7	9	3	血液・造血器疾患	赤血球疾患について説明できる。
14	7	23	3	血液・造血器疾患	白血球疾患について説明できる。
15	7	30	3	血液・造血器疾患	リンパ網内系疾患について説明できる。
16	8	27	3	血液・造血器疾患	出血性素因について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	臨床医学各論Ⅳ			学年	2年16期生
担当者				期別	後期
単位数	2単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間 16回			専任・兼任	専任
実務経験	特別支援学校附属治療院8年 専門学校附属治療院14年				
一般目標 (GIO)					
<p>人体の疾病についてその病態生理を解剖学・生理学・病理学分野を絡めながら理解し、代表的な疾患についての知識を修得する。</p> <p>治療院の臨床現場ではあらゆる疾患に遭遇する可能性がある。鍼灸治療の範疇をこえる患者が来院した際、それを直ぐに判断し、病態・病状の概要が説明でき、専門の病院を紹介すると共に、医師と連携してその後のサポートができる様な能力を身に付ける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	19	1	脳血管疾患	脳梗塞・一過性脳虚血発作について説明できる。
2	9	30	1	脳血管疾患	脳出血について説明できる。
3	10	7	1	脳血管疾患	クモ膜下出血について説明できる。
4	10	21	1	感染性疾患	髄膜炎について説明できる。
5	10	28	1	感染性疾患	神経梅毒・ポリオについて説明できる。
6	11	11	1	脳・脊髄腫瘍	脳腫瘍について説明できる。
7	11	18	1	脳・脊髄腫瘍	脊髄腫瘍について説明できる。
8	12	2	1	基底核変性疾患	パーキンソン病・ハンチントン舞踏病について説明できる。
9	12	9	1	基底核変性疾患	脳性小児麻痺・ウイルソン病について説明できる。
10	12	16	1	その他の変性疾患	脊髄小脳変性症・脊髄空洞症・進行性核上性麻痺について説明できる。
11	12	23	1	認知症性疾患	アルツハイマー病・脳血管型認知症について説明できる。
12	1	8	1	認知症性疾患	ピック病・レビー小体型認知症・一般身体疾患に伴う認知症について説明できる。
13	1	16	1	筋疾患	重症筋無力症・筋ジストロフィーについて説明できる。
14	1	20	1	運動ニューロン疾患	筋萎縮性側索硬化症について説明できる。
15	1	27	1	末梢神経性疾患	ギランバレー症候群・圧迫性絞扼性ニューロパシー・顔面神経麻痺について説明できる。
16	2	10	1	神経痛・機能的疾患	神経痛・頭痛について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
定期試験(筆記試験)のみ			臨床医学各論 第2版 (東洋療法学校協会編)		病気がみえる (メディックメディア)

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:30～14:00)

科目名	臨床医学各論V			学年	2年16期生
担当者				期別	後期
単位数	2			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間・16回			専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務6年 専門学校附属治療院2年				
一般目標(GIO)					
臨床で遭遇する可能性の高い整形外科疾患を中心に、概念・診断・治療・予後を含め学ぶ。 疾患ごとに、説明ができることを目標にする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	18	1	総論	保存的治療と観血的治療、画像診断について理解する
2		25	1	関節疾患	関節炎、関節の可動域の異常を理解し説明できる
3	10	2	1	関節疾患	五十肩、変形性関節症について理解し説明できる
4		9	1	骨代謝性疾患・骨腫瘍	骨粗しょう症、くる病・骨軟化症について理解し説明できる
5		16	1	骨代謝性疾患・骨腫瘍	骨腫瘍について理解し説明できる
6		23	1	筋・腱疾患	筋肉炎、筋膜炎、腱鞘炎、重症筋無力症について理解し説明できる
7		30	1	形態異常	先天性股関節脱臼、斜頸、側彎症、外反母趾、内反足について理解し説明できる
8	11	6	1	脊椎疾患	椎間板ヘルニア、後縦靭帯骨化症、脊椎分離症・すべり症、変形性脊椎症について理解し説明できる
9		13	1	脊椎疾患	脊柱管狭窄症、腰痛症、頸椎捻挫・むちうちについて理解し説明できる
10		20	1	脊髄損傷	脊髄損傷について理解し説明できる
11		27	1	外傷	骨折、脱臼、捻挫について理解し説明できる
12	12	4	1	外傷	スポーツ外傷・障害について理解し説明できる
13		11	1	その他の整形疾患	胸郭出口症候群、頸肩腕症候群について理解し説明できる
14		18	1	その他の整形疾患	ガングリオン、手根管症候群について理解し説明できる
15	1	15	1	復習	
16	2	12	1	テスト返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	臨床医学各論(東洋療法学校協会)		病気がみえる vol.11 運動器・整形外科(メディックメディア) 標準整形外科学(医学書院) 全部見える スーパービジュアル整形外科疾患(成美堂出版) 整形外科疾患ビジュアルブック(学研)	

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう理論Ⅱ			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	前期
単位数	1 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	16 時間	8 回		専任・兼任	兼任
実務経験	専門学校講師13年 臨床11年				
一般目標(GIO)					
<p>はり・きゅう理論の9章(鍼灸治効の基礎)～11章(関連学説)を理解し説明できる。</p> <p>鍼灸の治効理論を科学的な見地から説明できる。</p> <p>国家試験に必要な知識を身につける。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	11	1	痛み感覚の受容と伝達	痛覚について理解し説明できる
2		18	1	温度・触圧感覚の受容と伝達	温度・触圧感覚について理解し説明できる
3		25	1	鍼鎮痛	鍼鎮痛について理解し説明できる
4	5	9	1	生体への刺激と反応	生体への刺激と反応について理解し説明できる
5		16	1	鍼灸が自律神経へ及ぼす機構	鍼灸が自律神経へ及ぼす機構について理解し説明できる
6		23	1	鍼灸と生体防御へ及ぼす機構	鍼灸と生体防御へ及ぼす機構について理解し説明できる
7		30	1	関連学説	関連学説について理解し説明できる
8	6	6	1	関連学説	関連学説について理解し説明できる
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
評価基準			教科書		参考書
		%	東洋療法学校協会『はりきゅう理論』		
		%	(医歯薬出版株式会社)		
		%			
		%			

1限目(9:00～10:30)

2限目(10:40～12:10)

3限目(12:30～14:00)

科目名	経絡経穴概論Ⅱ			学年	2年16期生
担当者				期別	前期
単位数	2単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32時間	16回		専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院16年				
一般目標(GIO)					
鍼灸師として必須の経絡経穴の知識を修得する。					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・奇経八脈、奇穴、組み合わせ経穴、八会穴、四総穴、八総穴、下合穴などの要穴を身につける。</li> <li>・経絡経穴の現代的研究を理解する。</li> <li>・身体各部位の経穴横並び、経穴に関連する筋・神経・血管を理解する。</li> </ul>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	2	十四経脈の位置関係	身体における十四経脈の位置関係が説明できる
2		17	2	正経十二経脈の接続部	正経十二経脈の接続部が説明できる
3		24	2	奇経八脈	奇経八脈の経穴と流れが説明できる
4	5	8	2	要穴	四総穴・八会穴・八脈交会穴・交会穴・下合穴・禁鍼禁灸穴が説明できる
5		15	2	奇穴	頭頸部・胸腹部・背部の奇穴名および部位が説明できる
6		22	2	奇穴	上肢・下肢の奇穴名および部位が説明できる
7		29	2	経絡・経穴の現代的研究	経絡の現象が説明できる
8	6	5	2	経絡・経穴の現代的研究	経穴の現象が説明できる
9		12	2	上肢および下肢の経穴	十二経脈の上肢・下肢の経穴の位置関係が説明できる
10		19	2	頭頸部および胸腹部の経穴	十二経脈の頭頸部・胸腹部の経穴の位置関係が説明できる
11		26	2	背部および殿部の経穴	十二経脈の背部・殿部の経穴の位置関係が説明できる
12	7	3	2	経穴と解剖学的位置関係	上肢・下肢の経穴と筋の関連が説明できる
13		10	2	経穴と解剖学的位置関係	頭頸部・胸腹部・背部・殿部の経穴と筋の関連が説明できる
14		17	2	経穴と解剖学的位置関係	経穴と知覚神経の関連が説明できる
15		24	2	経穴と解剖学的位置関係	経穴と血管の関連が説明できる
16	8	28	2	テストの返却と解説	
評価基準			教科書		参考書
定期試験	100%	新版 経絡経穴概論(医道の日本社)		図説 東洋医学 基礎篇(学研) PT・OT・STのための解剖学(廣川書店) 経穴マップ(医歯薬出版)	
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	経絡経穴概論Ⅲ			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義
時間数・授業回数	32 時間	16 回	専任・兼任		専任
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院16年				
一般目標(GIO)					
鍼灸師として必須の経絡経穴の知識を修得する。					
・ドリル形式で、身体各部の経穴および要穴を確認し身につける。					
・問題を解くことにより苦手分野を知り、正しい知識を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	26	1	経絡の概説	経絡の走行・接続部・骨度法などの正誤を理解し正しく記述が出来る
2	10	3	1	督脈・任脈	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
3		10	1	手太陰肺経、手陽明大腸経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
4		17	1	足陽明胃経、足太陰脾経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
5		24	1	手少陰心経、手太陽小腸経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
6		31	1	足太陽膀胱経、足少陰腎経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
7	11	7	1	手厥陰心包経、手少陽三焦経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
8		14	1	足少陽胆経、足厥陰肝経	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
9		21	1	胸部・腹部・背部の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
10		28	1	上肢・下肢の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
11	12	5	1	頭頸部・顔面部の経穴	経穴名、部位、解剖の正誤を理解し正しく記述が出来る
12		12	1	五腧穴・五行穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
13		19	1	五要穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
14	1	9	1	四総穴・八会穴・八総穴・下合穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
15		23	1	すべての要穴	経穴名、要穴名を取穴部位から判断できる
16	2	6	1	経穴カルタ大会	要穴名から判断し、正しい経穴札が選択できる
評価基準			教科書		参考書
定期試験	100%	新版 経絡経穴概論(医道の日本社)			
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	東洋医学臨床論 I			学年	2 年 16 期生
担当者				期別	前期
単位数	4			講義・実習	講義
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	17年(鍼灸整骨院 4年、付属鍼灸院 13年)				
一般目標(GIO)					
鍼灸適応疾患か不適応疾患を現代医学的に鑑別でき、鍼灸適応疾患が東洋医学的にどのような証がたち、また、経穴が選穴できるようにし、鍼灸師として必要な能力を身につけさせる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	8	2	治療総論(現代医学・東洋医学的な考え方)	本治法と標治法、未病治が説明できる。
2	4	11	3	頭痛(現代医学的な考え方)	筋収縮性頭痛・片頭痛・群発性頭痛の違いを識別できる。
3	4	15	2	頭痛(東洋医学的な考え方)	気血両虚頭痛と痰濁性頭痛の説明ができる。
4	4	18	3	顔面痛(現代医学的な考え方)	非定型顔面痛・特発性三叉神経痛の違いを識別できる。
5	4	22	2	顔面痛(東洋医学的な考え方)	陰虚による顔面痛と肝火による顔面痛の説明ができる。
6	4	25	3	顔面麻痺(現代医学的な考え方)	ベル麻痺と中枢性顔面神経麻痺の違いを識別できる。
7	5	9	3	顔面麻痺(東洋医学的な考え方)	風寒による顔面麻痺を説明できる。
8	5	13	2	歯痛(現代医学・東洋医学的な考え方)	歯肉炎、腎陰虚による歯痛、実火による歯痛を説明できる。
9	5	16	3	眼精疲労(現代医学的な考え方)	緑内障、結膜炎、VDT症候群による眼精疲労の違いを識別できる。
10	5	20	2	眼精疲労(東洋医学的な考え方)	肝血虚・肝腎陰虚による眼精疲労が説明できる。
11	5	23	3	鼻閉・鼻汁(現代医学的な考え方)	アレルギー性鼻炎・血管運動性鼻炎の違いを識別できる。
12	5	27	2	鼻閉・鼻汁(東洋医学的な考え方)	肺気虚による鼻淵、肝胆鬱熱による鼻淵の説明ができる。
13	5	30	3	脱毛症(現代医学・東洋医学的な考え方)	円形性脱毛症、肝腎陰虚、瘀血による脱毛の説明ができる。
14	6	3	2	めまい(現代医学的な考え方)	メニエール病・良性発作性頭位眩暈症の違いを識別できる。
15	6	6	3	めまい(東洋医学的な考え方)	気血両虚、肝陽亢進による眩暈の説明ができる。
16	6	10	2	耳鳴りと難聴(現代医学的な考え方)	突発性難聴・無難聴性耳鳴りの違いを識別できる。
17	6	13	1	耳鳴りと難聴(東洋医学的な考え方)	腎精不足、肝火による耳鳴りと難聴の説明ができる。
18	6	17	2	咳嗽(現代医学的な考え方)	肺癌・気管支拡張症の違いを識別できる。
19	6	20	1	咳嗽(東洋医学的な考え方)	肺腎陰虚、肝火による咳嗽が説明できる。
20	6	24	2	喘息(現代医学的な考え方)	気管支喘息・COPDの違いを識別できる。
21	6	27	1	喘息(東洋医学的な考え方)	腎気虚、痰熱による哮喘が説明できる。
22	7	1	2	胸痛(現代医学的な考え方)	特発性肋間神経痛・虚血性心疾患・気胸の違いを識別できる。
23	7	4	1	胸痛(東洋医学的な考え方)	陽虚、瘀血による胸痺が説明できる。
24	7	8	2	腹痛(現代医学的な考え方)	機能性ディスぺプシア・腸閉塞の違いを識別できる。
25	7	11	1	腹痛(東洋医学的な考え方)	脾胃虚寒、寒邪、脾陽虚、肝鬱による腹痛を説明できる。

26	7	16	2	悪心と嘔吐(現代医学・東洋医学的な考え方)	つわり、胃炎、脾胃虚弱、食滞胃脘による悪心嘔吐を説明できる。
27	7	18	1	便秘と下痢(現代医学的な考え方)	潰瘍性大腸炎・クローン病・過敏性腸症候群の違いを識別できる。
28	7	22	2	便秘と下痢(東洋医学的な考え方)	虚秘、熱秘による秘結、腎陽虚、湿熱による泄瀉を説明できる。
29	7	25	1	月経異常(現代医学的な考え方)	月経前緊張症・月経困難症の違いを識別できる。
30	7	29	2	月経異常(東洋医学的な考え方)	経早・経遅・経乱による月経異常の説明ができる。
31	8	26	2	ED(現代医学・東洋医学的な考え方)	心因性ED、命門火衰、湿熱による陽萎が説明できる。
32	8	29	2	前期試験返却・解説	
評価基準			教科書		参考書
筆記試験		100%	東洋医学臨床論<はりきゅう編>東洋療法学校協会		新版 東洋学概論 東洋療法学校協会 臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)



科目名	東洋医学臨床論Ⅱ			学年	2年16期生
担当者				期別	後期
単位数	4			講義・実習	講義
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	17年(鍼灸整骨院 4年、付属鍼灸院 13年)				
一般目標(GIO)					
鍼灸適応疾患か不適応疾患を現代医学的に鑑別でき、鍼灸適応疾患が東洋医学的にどのような証がたち、また、経穴が選穴できるようにし、鍼灸師として必要な能力を身につけさせる。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	17	3	排尿障害(現代医学的な考え方)	慢性前立腺炎・神経因性膀胱の違いを識別できる。
2	9	19	2	排尿障害(東洋医学的な考え方)	腎陽虚、膀胱湿熱による癱閉を説明できる。
3	9	24	3	肩こり(現代医学的な考え方)	肩背部にある筋肉の作用を説明できる。
4	9	30	2	肩こり(東洋医学的な考え方)	肝血虚、気滞血瘀による肩こりを説明できる。
5	10	7	2	頸肩腕痛(現代医学的な考え方)	頸椎症・頸肩腕症候群の違いを識別できる。
6	10	8	3	頸肩腕痛(東洋医学的な考え方)	痺証(行痺・痛痺・着痺)を説明できる。
7	10	15	3	肩関節痛(現代医学的な考え方)	肩関節周囲炎の説明ができる。
8	10	21	2	肩関節痛(東洋医学的な考え方)	経筋による肩関節痛の治療が説明できる。
9	10	28	2	上肢痛(現代医学的な考え方)	胸郭出口症候群の説明ができる。
10	10	29	3	上肢痛(東洋医学的な考え方)	傷筋病の1つである肘労の説明ができる。
11	11	5	3	腰下肢痛(現代医学的な考え方)	筋筋膜性腰痛・椎間関節性腰痛・坐骨神経痛の違いを識別できる。
12	11	11	2	腰下肢痛(東洋医学的な考え方)	気血阻滞、寒湿、腎虚による腰痛が説明できる。
13	11	12	3	膝痛(現代医学的な考え方)	変形性膝関節症の説明ができる。
14	11	18	2	膝痛(東洋医学的な考え方)	労損が原因の膝痛を説明できる。
15	11	19	3	運動麻痺(現代医学的な考え方)	片麻痺、上肢と下肢の絞扼神経障害を識別できる。
16	11	26	3	運動麻痺(東洋医学的な考え方)	肝腎陰虚、湿熱による萎証を説明できる。
17	12	2	2	高血圧症・低血圧症(現代医学的な考え方)	本態性高血圧症、本態性低血圧症の説明ができる。
18	12	3	3	高血圧症・低血圧症(東洋医学的な考え方)	陰虚陽亢、痰濁による高血圧と気虚、気陰両虚による低血圧が説明できる。
19	12	9	2	食欲不振(現代医学・東洋医学的な考え方)	胃炎・胃神経症、胃陰虚・脾胃湿熱による悪食を説明できる。
20	12	10	3	肥満(現代医学・東洋医学的な考え方)	単純性肥満、気虚、痰湿による肥貴人の説明ができる。
21	12	16	2	発熱(現代医学・東洋医学的な考え方)	扁桃炎、陰虚、瘀血による発熱の説明ができる。
22	12	17	3	のぼせと冷え(現代医学・東洋医学的な考え方)	更年期障害、心腎不交によるのぼせと冷えが説明できる。
23	12	23	2	不眠(現代医学的な考え方)	機会性不眠と精神疾患による不眠の識別ができる。
24	1	7	3	不眠(東洋医学的な考え方)	心腎不交、痰熱による不眠の説明ができる。
25	1	8	2	疲労と倦怠(現代医学・東洋医学的な考え方)	生理的疲労、脾気虚、痰湿による倦怠の説明ができる。
26	1	14	3	発疹(現代医学・東洋医学的な考え方)	蕁麻疹、気血両虚、胃湿熱による発疹が説明できる。
27	1	16	2	小児の症状(現代医学・東洋医学的な考え方)	小児神経症、腎気虚、脾肺気虚による夜尿症を説明できる。

28	1	20	2	スポーツ医学における鍼灸療法	野球肩、野球肘、テニス肘の説明ができる。
29	1	21	3	スポーツ医学における鍼灸療法	運動性腰痛、ジャンパー膝、コンパートメント症候群が説明できる。
30	1	27	2	老年医学における鍼灸療法	アルツハイマー型・脳血管性認知症を識別できる。
31	2	10	2	老年医学における鍼灸療法	ロコモシンドロームを説明できる。
32	2	13	3	後期試験返却・解説	
評価基準				教科書	参考書
筆記試験		100%	東洋医学臨床論〈はりきゅう編〉東洋療法学校協会		新版 東洋学概論 東洋療法学校協会 臨床医学各論 第2版 東洋療法学校協会

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用Ⅱ			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	前期
単位数	2 単位			講義・実習	実技
時間数・授業回数	64 時間	32 回		専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院16年				
一般目標(GIO)					
主要症候の鍼灸治療において、東洋医学的な考え方(東洋医学概論で学習する疾病観、診断論、治療論など)と現代医学的考え方(疾病についての現代医学の知識や鍼灸治療の適・不適の判断など)、双方からのアプローチができるような知識と技術を養う。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	12	1	温筒灸の比較	複数の温筒灸を比較することで、それぞれの違いを判断することができる
2		12	2		
3		19	1	主な反応点の種類と探索1	反応点探索の順序に沿って触診ができる 圧痛点・過敏点・硬結・緊張・陥下の違いを識別できる
4		19	2		
5		26	1	主な反応点の種類と探索2	背部の触診ができ、反応点の違いを識別できる 反応点に適切な施術が実施できる
6		26	2		
7	5	10	1	主な反応点の種類と探索3	腹部の触診ができ、反応点の違いを識別できる 反応点に適切な施術が実施できる
8		10	2		
9		17	1	低周波鍼通電療法1	低周波鍼通電機器を正しく操作できる
10		17	2		
11		24	1	小児疾患	小児針・鍍針を用いた施術が実施できる
12		24	2		
13	6	31	1	円皮鍼・皮内鍼	円皮鍼・皮内鍼を用いた施術が実施できる 耳鍼が実施できる
14		31	2		
15		7	1	呼吸器疾患1	鼻閉・鼻汁に対する施術が実施できる
16		7	2		
17		14	1	消化器疾患1	胃痛・腹痛に対する施術が実施できる
18		14	2		
19		21	1	テスト1	背部俞穴および募穴への施術が時間内に正しく実施できる
20		21	2		
21		28	1	婦人科疾患1	月経異常に対する施術が実施できる
22		28	2		
23	7	5	1	消化器疾患2	悪心・嘔吐・食欲不振に対する施術が実施できる
24		5	2		
25		12	1	低周波鍼通電療法2	上肢および体幹の指定された筋に正しく鍼通電が実施できる
26		12	2		
27		19	1	低周波鍼通電療法2	下肢および殿部の指定された筋に正しく鍼通電が実

28		19	2	はりきゅう実技(基礎編)	施できる
29		26	1	テスト2	指定された筋に時間内に正しく鍼通電が実施できる
30		26	2		
31	8	30	1	呼吸器疾患2	咳嗽・喘息に対する施術が実施できる
32		30	2		
評価基準				教科書	参考書
実技試験		100%		はりきゅう実技(基礎編)(医道の日本社)	図解鍼灸臨床手技マニュアル(医歯薬出版)
		%		東洋医学臨床論(はりきゅう編)(医道の日本社)	鍼通電療法テクニック(医道の日本社)
		%			
		%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用Ⅲ			学年	2年16期生
担当者				期別	前期
単位数	2			講義・実習	実習
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	17年(鍼灸整骨院 4年、付属鍼灸院 13年)				
一般目標(GIO)					
鍼灸適応疾患・不適応疾患を身体学的検査法から鑑別し、病態が鍼灸適応疾患であると判断できるようにする。また学的な治療法を身につけさせ、鍼灸治療の幅を広げる能力を身につける。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	9	1	病的反射・深部腱反射	上肢・下肢の病的反射や腱反射の意義を理解し、行える。
2	4	9	2	MMT・ROM測定	各関節の正常なROMを知り、測定できる。
3	4	16	1	頸椎症に対する病態・検査法	頸椎症を理解し、ジャクソンテスト・スパーリングテスト・イトンテストが行える。
4	4	16	2	頸椎症に対する病態・検査法	頸椎症を理解し、ジャクソンテスト・スパーリングテスト・イトンテストが行える。
5	4	23	1	頸椎症に対する鍼灸療法	頸椎症に対し、現代医学的鍼灸施術を行える。
6	4	23	2	頸椎症に対する病態・検査法・鍼灸療法	症例に対し、病態を同定し、必要な検査法、鍼灸施術を行える。
7	5	7	1	肩関節痛に対する病態・検査法	上腕二頭筋長頭腱炎を理解し、ヤーガソンテスト・スピードテスト・ストレッチテストを行える。
8	5	7	2	肩関節痛に対する病態・検査法	腱板炎・腱板損傷を理解し、有痛弧徴候・インピンジメント徴候・落下手テストを行える。
9	5	14	1	肩関節痛に対する病態・検査法	肩峰下滑液包炎を理解し、ダウバーン徴候を行える。
10	5	14	2	肩関節痛に対する病態・検査法	肩関節周囲炎を理解し、結帯動作・結髪動作・ロッドマン体操を行える。
11	5	21	1	肩関節痛に対する鍼灸療法	肩関節痛に対し、現代学的鍼灸施術を行える。
12	5	21	2	肩関節痛に対する病態・検査法・鍼灸療法	症例に対し、病態を同定し、必要な検査法、鍼灸施術を行える。
13	5	28	1	腰下肢痛に対する病態・検査法	筋筋膜性腰痛、椎間関節性腰痛、仙腸関節炎の病態を理解する。
14	5	28	2	腰下肢痛に対する病態・検査法	脊椎圧迫骨折を理解し、叩打法を行える。
15	6	4	1	腰下肢痛に対する病態・検査法	椎間板ヘルニアを理解し、FNS、SLR、FHL、EHLを行える。
16	6	4	2	腰下肢痛に対する病態・検査法	脊柱管狭窄症を理解し、ケンプ徴候を行える。
17	6	11	1	腰下肢痛に対する鍼灸療法	腰下肢痛に対し、現代医学的鍼灸施術を行える。
18	6	11	2	腰下肢痛に対する病態・検査法・鍼灸療法	症例に対し、病態を同定し、必要な検査法、鍼灸施術を行える。
19	6	18	1	坐骨神経痛に対する病態・検査法	根性坐骨神経痛・梨状筋症候群を理解し、Kボンネットテストを行える。
20	6	18	2	坐骨神経痛に対する鍼灸療法	坐骨神経刺鍼を行える。
21	6	25	1	変形性股関節症に対する病態・検査法	変形性股関節症を理解し、パトリックテスト・トーマステスト・股関節内旋外旋テストを行える。
22	6	25	2	変形性股関節症に対する鍼灸療法	変形性股関節症に対し、現代学的鍼灸施術を行える。
23	7	2	1	膝痛に対する病態・検査法	変形性膝関節症を理解し、膝蓋跳動・膝蓋骨圧迫テスト・大腿周径測定を行える。
24	7	2	2	膝痛に対する病態・検査法	膝半月板損傷を理解し、アブレーテスト・ステインマンテスト・マクマレーテストを行える。
25	7	9	1	膝痛に対する病態・検査法	靭帯損傷を理解し、ラックマンテスト・引き出しテスト・内反外反動揺テストを行える。
26	7	9	2	膝痛に対する鍼灸療法	膝痛に対し、現代学的鍼灸施術を行える。
27	7	23	1	膝痛に対する病態・検査法・鍼灸療法	症例に対し、病態を同定し、必要な検査法、鍼灸施術を行える。
28	7	23	2	胸郭出口症候群に対する病態・検査法	胸郭出口症候群を理解し、アレンテスト・ライトテスト・エデンテストetcを行える。

29	7	30	1	胸郭出口症候群に対する鍼灸療法	胸郭出口症候群に対し、現代学的鍼灸施術を行える。
30	7	30	2	肘関節痛・手関節痛に対する病態・検査法	テニス肘、ドケルバン病を理解し、コーゼンテスト、中指伸展テスト、アイヒホッフテストを行える。
31	8	27	1	実技試験	
32	8	27	2	実技試験	
評価基準			教科書		参考書
実技試験		100%	はりきゆう実技<基礎編> 東洋療法学校協会		問診・診察ハンドブック 医道の日本社 現代鍼灸臨床の実際 医歯薬出版社

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	はりきゅう実技応用IV			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2			講義・実習	実習
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務 1年、鍼灸整骨院勤務 3年、専門学校附属鍼灸院勤務 7年				
一般目標(GIO)					
問診における基本的な聴取項目、聴き方、接し方、触診の基本的なやり方、理学検査の復習と確認、それらの得られた所見から病態把握、診療録の書き方などを行えるように、その知識・技術の習得を目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	20	1	医療面接の進め方	問診から治療までの大まかな流れを把握している
2		20	2	医療面接の進め方	問診から治療までの大まかな流れを把握している
3		27	1	聴取項目と診療録の書き方	問診が的確に聴取でき、その内容を診療録に記入できる
4		27	2	聴取項目と診療録の書き方	問診が的確に聴取でき、その内容を診療録に記入できる
5	10	4	1	患者との話し方・聴き方	患者とコミュニケーションが取れる
6		4	2	患者との話し方・聴き方	患者とコミュニケーションが取れる
7		11	1	触診のやり方	触る時の注意点や各部位の触診法を実践できる
8		11	2	触診のやり方	触る時の注意点や各部位の触診法を実践できる
9		18	1	東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
10		18	2	東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
11		25	1	東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
12		25	2	東洋医学的四診	望・聞・問・切の四診の所見が的確に取れる
13	11	1	1	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
14		1	2	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
15		8	1	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
16		8	2	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
17		15	1	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
18		15	2	初診患者のロールプレイ	初診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
19		29	1	再診患者の医療面接の進め方	再診患者の所見が的確に取れる
20		29	2	再診患者の医療面接の進め方	再診患者の所見が的確に取れる
21	12	6	1	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
22		6	2	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
23		13	1	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
24		13	2	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
25		20	1	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
26		20	2	再診患者のロールプレイ	再診患者に対し、問診から治療までを的確に行える
27	1	10	1	実技試験	
28		10	2	実技試験	

29		17	1	実技試験	
30		17	2	実技試験	
31	2	7	1	次年度の実習に向けて復習	3年次での臨床実習に向けて準備ができています
32		7	2	次年度の実習に向けて復習	3年次での臨床実習に向けて準備ができています
評価基準			教科書		参考書
実技試験		80%			フィジカルアセスメントがみえる(メディックメディア)
出席状況		20%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)



科目名	はりきゅう実技応用V			学年	2年16期生
担当者				期別	後期
単位数	2			講義・実習	実習
時間数・授業回数	64時間・32回			専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務6年 専門学校附属治療院2年				
一般目標(GIO)					
臨床で遭遇する疾患について、鍼灸施術が適応か不適応かを判断できることを目標とする。 これまでに修得した知識の復習を行いながら、疾患や症状ごとに処方穴を選び、効果的に刺鍼できることを目標とする					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	17	1	頭痛	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
2		17	2	頭痛	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
3		24	1	顔面痛・顔面麻痺	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
4		24	2	顔面痛・顔面麻痺	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
5	10	8	1	歯痛・眼精疲労	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
6		8	2	歯痛・眼精疲労	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
7		15	1	脱毛症	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
8		15	2	脱毛症	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
9		29	1	排尿障害・インポテンツ	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
10		29	2	排尿障害・インポテンツ	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
11	11	5	1	運動麻痺	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
12		5	2	運動麻痺	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
13		12	1	高血圧・低血圧	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
14		12	2	高血圧・低血圧	現代・東洋ともに考え方を理解し、適応・不適応の判別を行う 処方穴に適切に刺鍼できる
15		19	1	特殊鍼法(吸角療法)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
16		19	2	特殊鍼法(吸角療法)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
17		26	1	特殊鍼法(ネパール棒灸)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
18		26	2	特殊鍼法(ネパール棒灸)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
19	12	3	1	特殊鍼法(刺絡)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
20		3	2	特殊鍼法(刺絡)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
21		10	1	特殊鍼法(経筋治療)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
22		10	2	特殊鍼法(経筋治療)	基本的な施術方法を修得し、実践できる
23		17	1	復習	
24		17	2	復習	
25	1	7	1	復習	
26		7	2	復習	

27		14	1	試験	
28		14	2	試験	
29		21	1	試験	
30		21	2	試験	
31	2	13	1	まとめ	
32		13	2	まとめ	
評価基準			教科書		参考書
実技試験		80%	はりきゅう実技<基礎編>		
出席状況		20%			

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)

科目名	美容医学			学年	2 年 16 期生
担当者				期 別	後期
単位数	2 単位			講義・実習	講義・実技
時間数・授業回数	32 時間	16 回		専任・兼任	専任
実務経験	病院勤務5年、専門学校附属治療院16年				
一般目標(GIO)					
はり師きゅう師に対する社会的な期待をふまえ、この時代に必要な資質として、皮膚の健康医学、美容鍼灸に特化技術を修得する。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	26	3	皮膚の作用・構造	皮膚の作用および基本構造が説明できる
2	10	3	3	短針による撚鍼法1	三指持鍼法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
3		10	3	短針による撚鍼法2	両指持鍼法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
4		17	3	短針による撚鍼法3	堤捏刺入法を使用し、顔面部への刺鍼が実施できる
5		24	3	刺鍼前の準備	顔面部の経穴を正しく把握し前柔法が実施できる
6		31	3	常用穴への刺鍼1	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
7	11	7	3	常用穴への刺鍼2	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
8		14	3	常用穴への刺鍼3	3種の刺鍼法を用い、正しい部位に刺鍼が実施できる
9		21	3	くすみに対するアプローチ	くすみに対して、顔面部への施術が実施できる
10		28	3	しわ・たるみに対するアプローチ	しわ・たるみに対して顔面部への施術が実施できる
11	12	5	3	管鍼法を用いた施術	管鍼法を用いて顔面部への施術が実施できる
12		12	3	経皮的電気刺激を用いた施術	経皮的電気刺激を用いて顔面部への施術が実施できる
13		19	3	温灸を用いた施術	温灸を用いて顔面部への施術が実施できる
14	1	9	3	テスト	3種の刺鍼法を用い、時間内に正しい刺鍼が実施できる
15		23	3	テスト	3種の刺鍼法を用い、時間内に正しい刺鍼が実施できる
16	2	6	3	電気温灸器を用いた施術	電気温灸器を用い、顔面部への正しい施術が実施できる
評価基準			教科書		参考書
実技試験	100%				健康で美しくなる美容鍼灸
	%				
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:30~14:00)